

### 降灰の影響を乗り切ったマンゴー農家の今

JAこばやしマンゴー部会  
やすかず 松田 泰一 部会長



昨年、ハウスに積もった灰を取り除く作業に追われました。マンゴーは、1年を通して日差しを必要とする果樹。日照時間の差で、花の時期や実の色、甘

さが変わります。昨年とは、なんと影響も少なく、よい商品を出荷することができました。しかし、新燃岳はいつ噴火するか分かりません。事前にできる対策は少ないですが、常に噴火の情報には目を光らせています。

### 日差しが命のマンゴーに、降灰は天敵

新燃岳の噴火による被害や影響はさまざまな産業に及びました。農業では路地の野菜や茶などが灰を被るなどして約

2,800万円の被害。その復旧事業額は約2億3,000万円に上りました。また、予定されていたスポーツ合宿やイベントが相次いで中止。客足の減少により観光や商業など小林市の経済に大きな打撃を与えました。

### 産業に及ぼす噴火の影響

新燃岳は昨年1月26日、活発な噴火活動を開始。気象庁は噴火警戒レベルを2「火口周辺規制」から3「入山規制」に引き上げました。翌27日には爆発的噴火が発生。火山雷や空振により窓が揺れる現象が確認されました。28日、野尻町地区、堤地区で降灰を確認。道路は巻き上がる灰で視界が悪く、畑には多量の灰が積まりました。そして2月14日の爆発的噴火では市内に多量の噴石が降り、約700

件に上る被害が出ました。昨年1月26日以降の噴火回数は28回で、うち爆発的噴火は13回。噴火活動は徐々に落ち着き、爆発的噴火は3月2日以降発生していません。噴火は9月7日を最後に約5カ月半発生していません。

### 新燃岳噴火から1年

霧島連山・新燃岳が本格的噴火を始めてから1月26日で1年が経ちました。山は現在小康状態。ただ地下のマグマは再びたまっており、私たちは噴火への警戒を怠ることはできません。今月号では、昨年の新燃岳噴火を振り返り、今後起こりうる噴火にどう備えればよいかを考えます。



### 噴火警報継続中

▶噴石に備え、配布されたヘルメットをかぶり登下校をする児童

### 新燃岳噴火から1年

- 平成23年1月26日 小規模な噴火が発生。その後、噴煙が1500mまで上がる。噴火警戒レベルが2から3へ
- 1月27日 52年振りとなる爆発的噴火が発生
- 1月28日 野尻町区・堤地区を中心に多量の降灰
- 2月14日 多量の噴石により市内で被害が続出
- 2月15日 内閣府政府支援チーム来市
- 3月1日 13回目となる爆発的噴火が発生
- 平成24年9月7日 小規模な噴火。この日以降、噴火は起きていない
- 現在 小康状態が続く

### 新燃岳噴火から1年

# 「噴火警報継続中」

取材協力 Coverage cooperation  
鹿児島大学大学院  
理工学研究科 小林哲夫 教授  
宮崎地方気象台



1 火山灰に走る火山雷 2 多量の火山灰に見舞われた野尻町区東麓の畑 3 積もった火山灰の処理に追われる 4 県防災ヘリから 5 噴石により割れた車のガラス

### 非日常の通学路で覚えた恐怖

### 火口から約6kmの瀬田尾地区。2度の噴火を体験した大下さん

瀬田尾組  
おおした ひろし 大下 寛志 さん



53年前の噴火は、2月17日、昼の2時ごろでした。中学校の授業中で、教室が暗くなり、窓から灰が入ってきたのを覚えていてます。私たちは、先生に「早く帰れ」と言われ下校しました。外は真っ白く、何が何だか分からない状態。雨に濡れた灰が積もりベタベタで、歩くのがやっとでした。

山には、小鳥などの死骸も。助けようと、灰を取り除こうとしましたが、濡れた灰が口に詰まり、助けるのは難しかったです。山から動物がいなくなったと思えました。

### 噴石対策と避難

今は、空振があるたびに外に出て、新燃岳を確認します。瀬田尾に火砕流などの可能性は少ないようですが、怖いのは噴石。大きい噴石は風の向きに関係なく飛んでくる場合がある。家族にヘルメットを渡し、避難所へもすぐに駆け込めるように準備しています。